

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：融合理工学府先進理化学専攻生物学コース

学年：修士2年

留学先大学名：University of Wisconsin-Milwaukee

現在の学期：Fall semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	8:30-9:20 College Writing for Multilingual Students 10:00-11:15 Introduction to Creative Writing 13:00-16:15 Entertainment Arts: Film, Television, and the Internet
火	8:30-9:45 Practice in Academic Listening and Speaking 11:00-12:50 History of Film I: Development of an Art
水	8:30-9:20 College Writing for Multilingual Students 10:00-11:15 Introduction to Creative Writing 13:00-13:50 Entertainment Arts: Film, Television, and the Internet (Discussion)
木	8:30-9:45 Practice in Academic Listening and Speaking 11:00-12:50 History of Film I: Development of an Art 15:00-15:50 History of Film I: Development of an Art (Discussion)
金	8:30-9:20 College Writing for Multilingual Students
土・日	

履修科目や近況について

College Writing for Multilingual Students は主に英語を母語としない学生を対象に、学問における英語のライティング方法について学びます。4つのセクションに分かれており、セクションごとにエッセイを提出します。Prerequisite はありませんでした。

Introduction to Creative Writing は小説や詩といった作品の成り立ちや書き方について、作品の考察や実際に作品を作成する過程を通して学ぶ授業です。最終課題は授業を通して自ら作成した作品の修正版や、作家に対する考察などをまとめたポートフォリオを提出します。Prerequisite はありませんが、日本ではあまり見られない内容を英語で受講するので、他の科目に比べて難易度は高く感じます。ただ、そういった内容が貴重でもあるので、非常に学べるものが多い授業です。

Entertainment Arts: Film, Television, and the Internet は映画やテレビ、インターネット

といった“メディア”に触れ、それらが生んだ作品や歴史に関して議論する初学者向けの授業です。成績はディスカッションへの参加、鑑賞した作品に対する短いレポート、3度の試験結果により評価され、試験結果が評価の8割を占めます。

Practice in Academic Listening and Speaking は、TED トークなどの学習用動画の視聴やプレゼンテーションを通して、学術的な英語のリスニング・スピーキング力を身につける授業です。学習用動画の理解やプレゼンテーションの準備が主な課題です。

History of Film I: Development of an Art は映画鑑賞と講義、ディスカッションを通して映画史の発展について学ぶ授業です。成績は出席、レポート、試験の結果で決まります。

近況：生活面では、平日は毎日午前8時半から授業があるので（意図的に授業を入れたので）、半ば強制的に規則正しい生活サイクルを維持することができ、充実した日々を送ることができています。英語に関しては、特に専門性の高い授業になると序盤は聞き取れない状況に遭うことも多かったですが、授業回数を経るうちにここで何が話されるかといったパターンも把握できるためか、会話の内容を大方理解できつつある実感があります。しかし、ディスカッション（あるテーマについて少人数の学生が議論を交わす、日本ではあまり経験したことのない授業形態）では、当然流暢なスピーキング力と専門知識が必要なので、まだ客観的に参加している状態は否めませんが、リスニング同様徐々に慣れてくるだろうと思っているので心配はしていません。課外活動では、日本語を学ぶ現地の学生が集まるイベントに参加しました。また、千葉大学での LEX のようなプログラムに応募したので、参加する予定です。

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：融合理工学府先進理化学選考生物学コース

学年：修士2年

留学先大学名：University of Wisconsin-Milwaukee

現在の学期：Spring semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	11:30-14:20 Film Art for Non-Majors
火	11:30-12:45 Acting for Non-majors 15:30-18:30 Foundation Production: Fiction
水	10:30-13:20 Digital Filmmaking for Non-Majors
木	11:30-12:45 Acting for Non-majors 15:30-18:30 Foundation Production: Fiction
金	
土・日	

履修科目や近況について

昨セメスターは実際に小説や詩を英文で作成してクラスで議論する Introduction to Creative Writing や、学術的なライティング方法を学ぶ College Writing for Multilingual Students といった授業を受講することで、様々なジャンルの英文について深く学ぶことができました。さらに、日本語を学んでいる現地学生とともに、日本語での映画を制作するプロジェクトを通して、実際に脚本の英日翻訳に携わったりしました。今セメスターでは、課外活動としてこうした英日翻訳に関わるプロジェクトを継続しつつ、昨セメスターで興味を抱いた Film について深く学んでいこうと思います（交換留学生であれば、下記の授業は Prerequisite の有無に関わらず受講できました）。

Film Art for Non-Majors では、Film を専攻していない学生を対象に、映画が描く心理的、感情的、社会的側面を考察しつつ、芸術としての映画を研究するための技術的、歴史的な背景を学びます。この授業では、映画製作者の視点から映画を鑑賞する経験を積むため、映画作品に対する感想を学術的なエッセイとして提出したり、自ら映像作品やその前段階である静止画を撮影するといった創作などを課題としてこなすことで、映画に対する批評的思考と鑑賞能力を養うことができます。

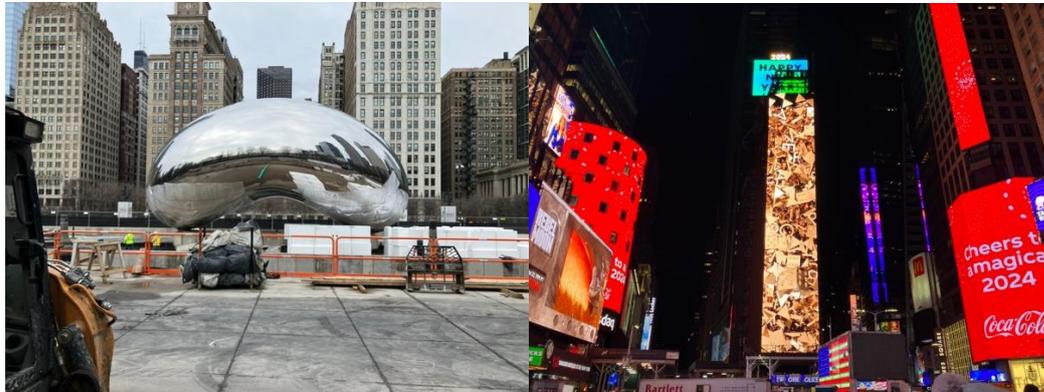
Acting for Non-majors では、実際に身体を動かして何かを表現するエクササイズや、独り語りや二人で行う簡単な演劇を実践することで、役者として演劇に関わる体験ができる授業です。アメリカでは演劇の授業や活動というのは高校からの比較的一般的なカリキュラムとして存在するらしく、日本人の私としては珍しかったので受講しました。また、演劇を通して自らの内面や誰かになりきる経験をすることで、自分に自信を持つことができ、周囲に何かを表現したり発言することへの抵抗を克服できるといったメリットもあると聞き、今後の人生にとってプラスになると感じたことも受講を決めた要因です。課題としては、授業中に行うアクティビティのための文章の暗記や、演じる役柄を決めてその練習をすることなどが挙げられます。

Foundation Production: Fiction では、フィクション映画をテーマにして、プロフェッショナルなストーリー構成の方法を幅広く取り上げ、芸術的な映像作品を制作するための技術と創造力を磨きます。この授業を通して、脚本制作、撮影、音声録音、照明、編集を含む映画制作の基礎を学んでいきます。課題は、授業で行ったワークショップの続きや、各プロジェクトの進行があります。週2回3時間というかなりタフな授業ですが、留学でしか受講できない内容を学べる点でも貴重だと感じます。

Digital Filmmaking for Non-Majors では、Film 専攻以外の学生を対象に、様々な映画ジャンルにおけるアイデアの考察、映画制作段階ごとの作業を実技を交えて促すことで、デジタル映画制作の基礎を養います。課題は授業ごとに出されるプロジェクトの進行や、音楽や映像の一部が映画に与える役割の考察などがあります。Foundation Production: Fiction を受講するための基礎能力を養う目的で、並行して受講しています。

近況：生活面では、就職活動も本格化してくる時期で深夜のミーティングも多くなるため、比較的遅い時間からの講義を中心に履修しています。英語に関しては、講義内容はほとんど聞き取れるようになり、実技科目が多い影響もあり、授業中の発言に関しても多く経験することができています。ただ、授業中に自ら挙手して発言することに対して、メンタル面でまだ現地の学生に劣ることは痛感するので、今学期でなるべくその差を埋められるように意識して授業に臨んでいきます。今学期の履修科目は一見留学当初の目的であった翻訳を学ぶこととかけ離れているようですが、前期の留學生活から、学術的な翻訳よりも小説や映画といったエンターテインメントにおける物語の翻訳、あるいはそれら自体の制作に魅力を感じ、課外活動と学業両面において、そういった興味の探究と開拓は継続できているのではないかと感じています。日本語映画における脚本の翻訳に関わる他、課外活動としては前期にも行っていた日本語学習コミュニティにも継続して参加し、現地学生の日本語の上達を支援していきます。

【年末年始に旅行した、シカゴ（左）とニューヨーク（右）】



【1月初旬のキャンパス内。氷点下20度の世界を経験できました】



【大学のタワーで行った、9月のMLB（左）と1月のNBL（右）観戦】

